



毎月第1土曜・第3日曜 午前10時～12時

※天候等により日時が変更になることもあります。

水辺のさとをぐるっと一回りして、観察された生きものを記録します。参加者同士で教え合うスタイルの観察会です。



【場所】水辺のさと(水元公園内)

【参加費】一人につき100円

【申込】ホームページにて受付



1月26日(日) 午後1時～3時

いきがい・つながり・地域貢献活動フェア

【会場】京成高砂駅構内(改札内)

葛飾区で活躍するボランティア・地域貢献団体とその活動内容を広く知っていただくことを目的としたイベントです。

主催:葛飾区社会福祉協議会

3月8日(土) 午前10時～12時

講演会「バイオミクリーって何?」

【講師】谷本 茂明氏
(東京大学大学院農学生命科学研究科 特任研究員)

【会場】青戸地区センター 4階

参加無料・定員100名・当日受付
事前申込可能(当法人HPから受付)

共催:葛飾区環境課
協力:葛飾区生物多様性推進協議会



とんぼ 2025
秋津 冬

秋津(あきつ)とは、トンボの古い呼び名。そして日本は昔、「秋津島」と呼ばれていました。



【今月のテーマ】 冬越しの生きもの

オオミノガ(ミノムシのすがた) [ミノガ科]

10月頃、オオミノガの幼虫は葉や枝などで「蓑(ミノ)」をつくり、幼虫のまま冬を越します。オオミノガのミノは、枝などにまっすぐ垂れ下がるように付きます。メスのオオミノガは、成虫になってもミノの中に居続けます。

冬越しの生きもの

寒い冬、生きものはどのように過ごしているのでしょうか。足元や枝の先をよく探すと、植物や昆虫のさまざまな冬越しの姿が見られるかもしれません。

自然観察会で観察された動植物の記録や、
広報紙のバックナンバーはこちら▶▶
<https://mizumoto-np.jpn.org/akitsu/>



ロゼット

葉を地面にぴったりとつけて、放射状に広げた状態を「ロゼット」という。地面に広げた葉は日差しをたくさん浴びて、冬の間も光合成でエネルギーをたくわえることができる。



セイヨウタンポポ
葉の切れ込みが深い。



ミゾコウジュ

しわしわな葉が特徴。

茎を短くすることで、茎をつくるためのエネルギーを葉や根に使うことができる。また、茎を短くすれば強風で折れることがなく、動物にも食べられにくい。



オノノゲシ

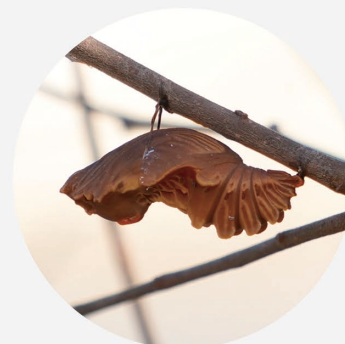
とげとげした葉は触ると少し痛い。

カマキリの卵鞘(らんしょう)

カマキリの卵鞘は、硬めのスポンジ状のかたまりで、中に卵がたくさん入っている。カマキリの種類によって、卵鞘の形は異なる。



オオカマキリ



ジャコウアゲハ

チョウの蛹(さなぎ)

チョウは種類によって、冬越しの姿が異なる。アゲハやアオスジアゲハ、ジャコウアゲハなど、アゲハチョウ科の大部分は蛹の姿で冬を越す。

スズメバチの女王蜂

働き蜂やオスの蜂は冬には死んでしまうが、秋に生まれた新女王蜂は越冬する。女王蜂は、朽ち木や土の中に潜り込んで冬を越す。

※冬越しの生き物のため、観察した後は、朽ち木を元の位置に戻しましょう。



コガタスズメバチ